Osaka University Knowledge Archive

Title	乳がんの検査
Author(s)	中野, 陽典
Citation	癌と人. 1980, 7, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24183
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

乳がんの検査

評議員　中野陽典*

これは乳房のシコリの検査の方法を，理解しやすくするために，ある婦人の経験として綴ったものであります。

『ある日，乳房にシコリが，できているのに気がついたとき，私は“がん”を連想し，一瞬血の気が引いて眼前がくらくなっていくのを自覚しました。翌朝目をさましたとき，依然としてシコリは存在し，どうにもならぬいらだちで何事も手につかず，ついに決心して病院を訪れました。

その日の医師の診断は，多分良性の腫瘍であろうが念のため乳房のレントゲン検査と超音波による検査をしておこうというものでありました。いくぶん気分もやわらぎ，その日は検査を受けて帰宅しましたが，一方では，なおいくばくかの不安も残り，乳がんと宣告された場合の心がまえが少しずつ芽ばえてきたように思えました。

検査の結果がでるまで，心配で夜も十分な睡眠がとれず，おちついて仕事もできなかったのは事実で，目の前に自分の乳房のレントゲン写真が並べられるのを気が遠くなるような気分でながめていました。

医師がレントゲン検査と超音波検査の結果も良性の像を呈していることを告げてくれたとき，一度に束縛されていた重荷から解放され身体が軽くなるのを憶えました。

次の瞬間，厳然として残存する乳房のシコリを自覚し，これはこのままにしておいていいのだろうかという不安が頭をかすめました。その時医師は，このシコリについて，99%良性だとしながら，摘出手術をして，組織検査をしておくようすすめていました。良性とは言えシコリの存在は異常であり摘出即治療でもあり，組織検査による100%の安心も得られるからという説明でありました。

局所麻酔で，わずかな時間で摘出できること，通院でできること，乳房に若干のキズアトのできることなどの説明を受け，100%の安心を得るためのもう一度の苦痛を了解したのでした。

シコリの摘出の日は以外にサッパリした気分で病院におもむけました。

手術台の上に横たわったとき，消毒のアルコールの匂いが鼻をツンーと刺激した位で，特に不安はありませんでした。これから麻酔の注射をしますよ，これだけが痛いですからねえ，という医師の声が聞こえて乳房に針のさされる痛みと，麻酔液が入っていく重みをややしばらく感じましたが，やがてそれも消え，ガチャガチャという器械の音や，メスとかハサミとかいう医師の声がし，ときどき乳房の一端がひっぱられるような感じがし，やあ手術がはじまったのだなあと自覚しました。長い時間に感じましたが，皮膚にチクチクとした痛みを感じだしたころ，もうシコリはとれていま皮膚を縫っているのですよ，という医師の声がして，間もなく顔の上にも，着せられていた布がとれ，明るい照明燈が目に入り，終りましたよという声をききました。

術后スグの医師の話では，まず大丈夫なものと思いますが，一週間で組織標本ができますので，念のためよくしらべておきますよということでありました。

術后は，そのまま帰宅し，当日もらって帰った鎮痛剤で治まるかるい痛みを感じただけで主婦としての用事は，おおむね日常通り行えました。

このころにはもう自分も99%大丈夫なのだという気持と，すでにシコリがとれてしまっているという安心感で，手術をしてもらってよかっ

* 大阪大学講師（微生物病研究所外科）

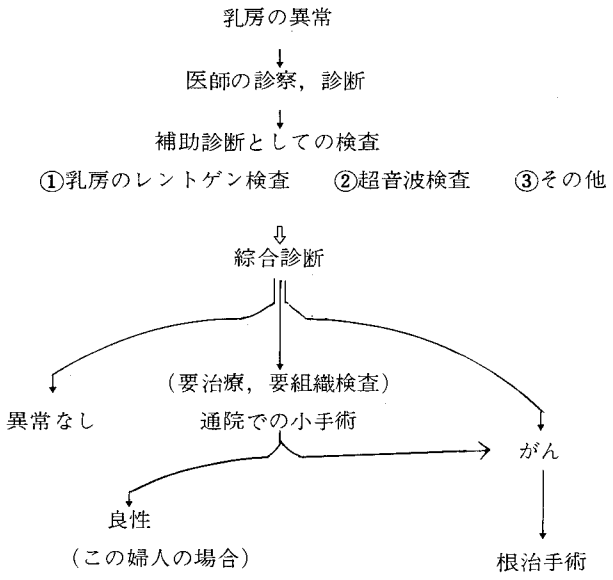
たと思いだしていました。

1日毎に，手術のキズアトの手当を受けに通院し，糸を抜いてもらうころには，組織標本ができて良性の線維腺腫というものであることを知らされました。

これで100％の安心が得られたと思うと，当初恐怖におののいたことが，乳房の上にできたキズアトを見ながら，不思議にすら思えました。

乳房は，自分で診察できるところですから異常を感じたら，またすぐ受診しなさい。できれば何も異常を感じなくても，半年に1回は専門医の診察をお受けになったら，という医師の声を実感として感じうるのは，最初のあの不安感と，流れに沿うように100％の安心まで到達した検査の経験があったからこそだと思いますした。』

この婦人の経験を，もう一度図に示してみたら次のようになります。



この婦人がそうであったように，この図のような検査システムに乗れば，多くの乳房の異常に，ほぼ確定診断が下されるわけです。

ただ，乳房に対する異常の自覚は各婦人により異るもので一様ではありません。こういうところに進行乳がんを生じせしめる素地があります。集団検診の意義は，こういう素地をなくするところにあるでしょう。

自覚でき，自己診察も可能で，集団検診等あるいは医療機関の利用で，自己の診断を確認できるがん，乳がんこそ，100％完全治癒しうるものであります。乳がんこそ各人の自覚で，恐怖の病いにしてはなりません。